埼玉方言から見た信州方言

町 田 育 弥　　大 橋 敦 夫
MACHIDA Ikuya　　OHASHI Atsuo

キーワード：方言・埼玉方言・信州方言

はじめに

第40回の総合文化学科公開講座「埼玉方言から見た信州方言」（2020．2.29開催予定）は、コロナ禍のため、開催中止にせざるを得ない状況となってしまいました。以来、いまだに新型コロナウイルスの感染拡大は収束せず、講座開催の見通しが立ちません。

準備してくださった講師の町田育弥先生、講座を楽しみにしてくださっていた方々には、心苦しい思いをしております。そこで、誌上対談のかたちで、対面の講座に代わる読み物を企画いたしました。

会場形式ならば、来場者の方々とのやりとりから、さらに内容が充実することも期待できるのですが、今回は、読後に感想をお寄せいただければ幸いです。

Ⅰ．埼玉方言の特徴

●一般の方は、埼玉は首都圏にあり、方言的特徴はないと思われるようですが、実際に暮していらっしゃる埼玉県民のみなさんは、どのように意識されているのでしょうか。

「みなさん」の中には、色々な境遇（埼玉との関わりにおいて）の人が混在しているでしょうから、その人達の一般的傾向についてお話しするのは不可能だと思います。そこで、自分の事だけお話しします。

私の生まれは、埼玉県東部の岩槻というところ（【図１】では南埼玉郡に相当）で、15世紀からの城下町です。15世紀といえば戦国時代ですから、勝者の一派が先住者を追い出して住み着くようなことが繰り返されて、人の出入りはかなり激しかったことでしょう。で、少なくとも

世情が安定した江戸時代から明治維新まで、私の先祖は岩槻藩主の家来だったようです。その後も現在に至るまで私の家族は岩槻に居るので、岩槻歴は1608年以来400年以上。ですからまあ、バリバリのサイタマ語族だといえると思います。

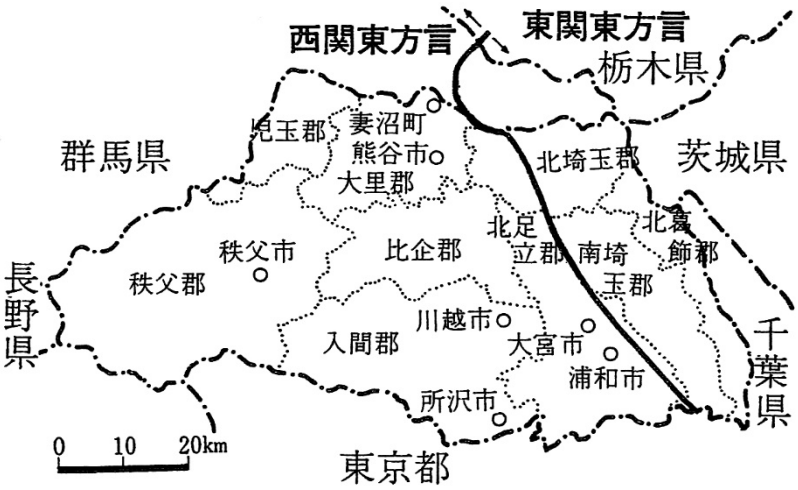
そういう出自ではありますが、子どもの頃は自分が埼玉人でサイタマ語族だという意識は、ほとんど持たずに過ごしました。まあ、これは当然ですね。周り中みんな同じような言葉遣いをしている中で育つ訳ですから「これは我々特有のコトバだ」なんて思うはずがない。

で、中学から東京の学校へ行ったら同級生に自分の言葉が理解されなかったり、その言い方はヘンだ、などと言われて、はじめて「あ、これは方言か？」と意識したかなぁ？その後進学した高校は全国から生徒が集まる学校だったので、ここで様々な方言に触れることになりました。「コレをお前んとこではどう言うの？」なんて、友達と訊き合うのは楽しかったですよ。

私みたいなバリバリ原住民、というわけではなく、祖父母や親の代で、あるいは自分がモノゴコロついてから、とか、大人になってから埼玉に移住して来た人の方が「埼玉の言葉ってさ……」の意識を強くもっているのではないでしょうか？

●方言学の分野では、地図のような区分をしていますが、先生自身がお感じになっている各地の特徴は、ありますか。

【図１】埼玉県の方言区画図



（引用：平山輝男（編者代表）『現代日本語方言大辞典』第１巻　明治書院　1992.3――「埼玉県方言」ｐ.121）

私の母方の祖父は嵐山（らんざん）というところの養蚕農家から婿入りしてきた人です。ええっと、この地図で言うと大里郡の「大」から比企郡の「比」にかけてのあたり。この区分けだと「西関東方言」エリアですね。で、ちょっと秩父テイストが混じっているかもしれない。

私はおじいちゃんコだったので、言語的にはかなりこの祖父の影響を受けていると思います。後に出てくる【表１】の中に、思い当たるものが多いですね。

で、岩槻は「東関東方言」エリアですか…。ここ、栃木に近いですね。私が小さい頃、岩槻には、栃木弁ぽいイントネーションの人が多かったような気がします。成人してから、栃木のゴルフ場のキャディーのおばちゃんのしゃべり方が、ガキの頃の近所のじっちゃんばっちゃんにそっくりで仰天した覚えがあります。

つぶやきシローっていうコメディアンがいますが（わかるかな？）、彼の音域と抑揚をもう少し高いほうに拡げて、語尾を引っ張り気味に跳ね上げる感じです。U字工事とはぜんぜん違う。祖母・母・父（全部、岩槻人）には、少しこの傾向があって、自分の喋りの録音なんか聴いてもそれを感じます。その他の地域の特徴のイメージは、ないですね。

●かつて、ＮＨＫでは、「21世紀に残したいふるさと日本のことば」というシリーズのテレビ番組を、年間を通して放映しました。

埼玉県の回（2000．7.30放映）では、表のような10語が紹介されましたが、この表について、先生のコメントをお聞かせください。

【表１】21世紀に残したい　埼玉のことば10

表現	意味	表現	意味
そうだんべ	→そうだよね	おっぺす	→押す
そうなん	→そうなの？	ひゃっこい	→冷たい
てえ	→へー・あらあら	まっと	→もっと
はあ	→もう	なす	→返す
いやんばいです	→元気です	きない	→きてください

（引用：ＮＨＫ放送文化研究所『ＮＨＫ21世紀に残したい　ふるさと日本のことば②関東地方』学習研究社　2005.3）

「はぁ」「そうなん」「まっと」「なす」は、知りません。こういう言葉を使う人は、周りにいませんでした。

「てぇ」は私の知る限り、会話の中でというよりは、独り言というか感嘆詞のような使い方をします。ほとんど無声音で「っっってえぇっ！」みたいな言い方。「っっっ」で思いっきりタメて、「え」が声になる時は裏声に近い高音。私も無意識に、度々「っっってえぇっ！」とやっているような気がしますが、最初この資料の表記と解説を見たときは、あまりにも淡々とした書き方がそのイメージと結びつかず、「これは知らないな」と思いました。赤塚不二夫さんは、埼玉人の知り合いからイヤミの「シェー！」を思いついたのかな？

「だんべ」は、はい、よく聞きます。「べー」と伸ばすことはないんじゃないかな？浦和あたりの人もけっこう使いますね。

「いやんばいです」。これは、「いい塩梅」がリエゾンされているんですね。先に述べたじいちゃんがとてもよく使っていた言葉です。万能社交挨拶フレーズであり、とにかくなんでも「具合・都合がよい」表現に使います。「湯加減がいやんばいだ」「夕立が来る前に洗濯物が乾いていやんばいだ」等々。私のじいちゃんは、贔屓の力士が得意の組み手になると、ＴＶの前で「よぉし、いやんばいだ」。ときには、「ざまあみろ」的なニュアンスで使うこともあります。

「おっぺす」「ひゃっこい」「きない」。これらも祖父母がよく使っていました。「きない」は、誘いの言葉だと解説がありますが、実際には「来」が「こ」と発音されるべきところが「き」になる形で、「用事ができてキられなくなった」「早く呼んでキないきゃ（来なければ）」、「次はいつキられますか？」など様々に使われます。

「おっぺす」や「ひゃっこい」に似た「おっかく」「やっこい」という言葉がありますが、これは「折る」「やわらかい」のこと。

あと、車輪を「はま」というのは、私にとっては普通ですが、たいていびっくりされます。

●確かに、珍しい語ですね。語源はどういうものか、調べてみたいところです。

続けて、先生の好きな埼玉弁をご紹介ください。

特に「これが」というものはありませんが、まだやっこくなんない柿をとったら怒らぃ(れ)っから、ばあちゃんがきないうちにとんべ、とキムラ君の尻をおっぺして木に登らせたら、枝がおっかける音で、ばあちゃんに気付かれて叱らぃ(れ)たことなどを懐かしく思い出します。

また、参考文献（2005）に挙がっているもののなかで、深谷のおじさんの会話は、もうそのまんま耳になじんだメロディーとして聞こえて愉快です。

「おーう、あちいよ（暑いよ）。」

「おー、どうも、あちいね（暑いね）。」

「なにやってるん（の）？」

「すこしかたしてんなって（片づけている)。」
「はあ、そうかい。きょうは暑くってまあ。」
「仕事一日でもう、きゅうすなっちまったよ（気を失ったよ)。」
「そうだんべ（だなあ)。うんうんうん。」

Ⅱ．埼玉方言から見た信州方言

●先生は、温泉を愛好され、地元の信州人よりも県内の温泉事情に通じていらっしゃいます。湯の中では、地域の方々のくつろいだ会話もお聞きになっていると存じます。長野県の方言について、どんな印象をお持ちですか。

全体的な印象を語る前に、「方言」からは少し逸れますが、印象的なエピソードを……。
数年前、上田市室賀の「ささらの湯」の早朝風呂でのことです。
「朝湯」開湯直後の午前5時ごろ、まだ暗く、霧だかモヤだかが周囲の山に垂れ込める中、露天風呂に浸かっていると、地元の方と思しきご老人が空を見上げながら「驚異的だぁ」「ああ、驚異的だぁ」と言い合っている。何事かと私も空を見上げましたが、別にどうってことないので「？？？」。数秒後、「そうか、“今日はいい天気だ”なのか！」と気づいた次第。
聞き間違いの可笑しさと同時に、この空で、なんで「今日はいい天気」だと分かるのか、不思議に思いました。私にとっては、それこそ驚異的だぁ。地域の天候の特徴や空気感を熟知している地元の方ならではの勘というか察知力。「方言」ならぬ「方眼」とでも呼びたいところです。その日はほんとに快晴で、耳に残ったこの会話の響きを一日中反芻して楽しみました。

●音楽家である先生らしいエピソードですね。
それでは、あらためて、長野県の方言について、どんな印象をお持ちですか。また、不思議だな、おもしろいなとお感じになった例は、ありますか。

「～ずら」というのは、静岡（富士山麓）出身の友人が使っていたので、その地方の方言かと思っていました。が、長野でも「～ずら」が使われるようですね。真田の「草の者」は、上田と小田原・駿河との間を数日で走破したそうですから、一般人も昔からそちら方面との行き来が頻繁にあったということなのか？と想像します。
足掛け８年、上田に住んでみて、印象に残っていることがいくつかあります。
まず、「５番」「５枚」など。これ、こちらでは「ゴ」が最高音ですね。「半袖」は「ハ」が、「流れ」は「ナ」が、こちらのイントネーションでは最高音です。つまり、上から落ちるように

発音する。これにびっくりしました。関東人の発音では、これは下から上に向かいます。

それから、ものを尋ねるとき、「ですか？」の「か」を言わずに「ですぅ？」と語尾を上げる言い方。はじめは女性特有なのかと思いましたが、男性も使うのですね。東京で、初対面の女性がこの言葉遣いをしたので、「長野のご出身ですぅ？」と訊いたら、「え？何でわかったんですぅ？」と驚いていました。

女子学生がよく使う「するしない？」にも戸惑いましたが、これは昔から使われている言葉なのでしょうか？また、男の子も使うのでしょうか？

●北信の須坂市発祥の「新方言」と呼ばれている事例です。若者層を中心に広がり始め、東信地域にも進出してきています。男女問わず使われます。

さらに、お続けください。

もうひとつ「どうぞおしずかに」。「どうぞごゆっくり」のことだと知らず、戸惑ったおぼえがあります。学生の実習先巡回で、ある保育園に伺ったときのことです。応接室に通されると、園長先生がお茶と野沢菜（これも長野独特ではじめは驚きました）を持ってこられ、「どうぞ、おしずかに」と出ていかれました。で、別に騒ぐつもりはありませんでしたが、野沢菜を「静かに」食べるというのは至難の業ですよね。かなり盛大にポリポリいう。静かにしろと言いながらコレを食えとは、信州人はなんと意地の悪い……とは、いえ、あの、はい、思いませんでしたけれど……。

●埼玉と長野は、県境がわずかですが接していて、隣接県ということになるのですが、埼玉と似ているという風俗・方言はありますか。

群馬も含めて養蚕で交流のあった地域同士ですから、それに関わる習慣や言葉などに共通のものが多かったりするのかな？と想像します。たとえば、桑の実を私は「どどめ」として知っていますが、塩田育ちの年の近い先輩も「あれは“どどめ”だ」と言っていました。

それから、コトバの伝播ということで、紹介したい事例があります。

私の主宰する認定こども園に小諸出身のベテラン保育教諭（50代）がいるのですが、この先生が「もちにいく」（関東人ならば「取りに行く」というところ）を使います。

「さあ、では、お帰りの支度をしようね。〇〇ちゃんから一人ずつロッカールームに自分のカバンをもちにいっておいで」

そのグループの子どもたちには、すでに「もちにいく」は刷り込まれていて、私も学生との関わりから、その言葉に馴染んでいたので違和感はありませんでした。

で、ある朝、子どもたちと、ザリガニ水槽の水替えと餌やり（そういえば、私の地元では、餌などを与えることを「くれる」という言い方もよく耳にします。これも方言かもしれません）をしながら、

「よし、これで水はだいじょぶ。きれいになったね。じゃ、煮干しの袋、いつものところ、わかるよね？からとってきてくれるのは　誰かな？」と私が言ったところ、

「うん、ボクがもちにいく」

「だめ、オレがもちにいく」

「ええ？アタシのほうが知ってるよ」

「なんだよ、じゃひとりでもちにいけんのかよ？」

とバトルが始まりました。私の「とってくる」を、子どもたちは自然に「もちにいく」に置き換えているわけです。

コトバの伝播を目の当たりにした瞬間でした。

●最近は少なくなっているようですが、信州方言でも、「くれる」を使います。小学校で、学級の花壇などに水やりをする係りは、「水くれ当番」です。

最後に、信州方言でお気に入りのものは何ですか。

単語の「ずく」ですね。語感がいかにも「ずく」らしくて、他に言いようがないニュアンスが好きです。「気合い」「意欲」「元気」「根気」「ヤル気」「根性」…みんなちがってみんなダメ。「ずく」は「ずく」だよなぁ。ウエィダーさん（上田市のローカルヒーロー）の腰にもついてるぜっ！

●「ずく」は、長野県全域で使われるもので、信州人の気質に関わるキーワードですね。最後に県民への励ましもいただき、今回は、どうもありがとうございました。

【参考文献】

平山輝男（編者代表）『現代日本語方言大辞典』第１巻　明治書院　1992.3 ――「埼玉県方言」ｐ.121-125

井上史雄・吉岡泰夫監修『関東の方言――調べてみよう暮らしのことば』ゆまに書房　2004.4 ――「埼玉県」ｐ.13

ＮＨＫ放送文化研究所『ＮＨＫ21世紀に残したい　ふるさと日本のことば②関東地方』学習研

究社　2005.3 ――「埼玉県　いろいろなことばが出入りする多国籍地帯」ｐ．36-43
たかい　よしかず作・絵『47都道府県　方言キャラ絵本　東日本』国土社　2014.1 ――「埼玉県」ｐ.32-33